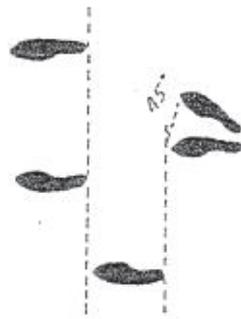


1. 球審の構え

On the rubber — Get set — Call the pitch — Relax



(Heel/Toe/ Heel/Toe)



スロットスタンス：

1) 足

捕手の足の踵／球審の足のつま先／踵／つま先（上図）

踵からつま先まで地面につける

両足のスタンスは最低肩幅（殆どの場合肩幅以上）

両足に均等に体重をかける

スロット足を先に決め、後ろ足は45度まで開く

（両足のスタンスは自分の一番楽な位置が良い）

2) 肩

投手板に正対する

地面と平行に

3) あご

地面と平行に

捕手の頭上部の高さに合わせる（上図）

4) 体

やや前方に傾ける

頭の高さを決めるのにしたがって腰の位置も決まる

5) 腕と手の位置 ①、②のどちらでも良い

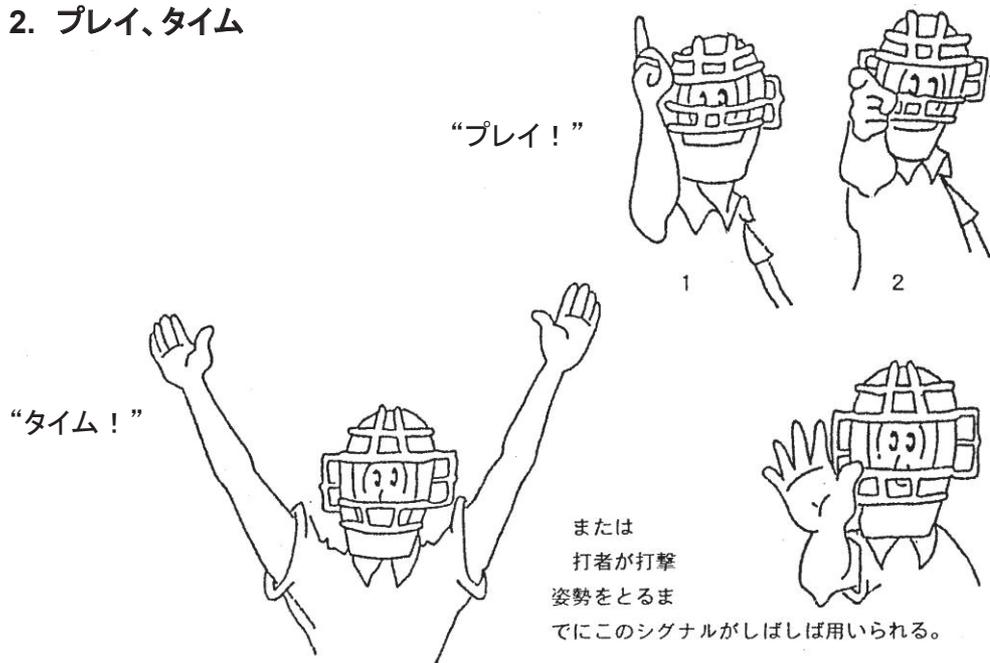
① スロット方向の腕は90度に曲げ、胃に近いあたりに止める。もう一方の腕はひざの上部あたりに軽く添える。

② 両前腕を足の内部に入れ、太ももあたりに持つてくる。手は自然に下げるか軽く握る。

球審の構えの3大ポイント：

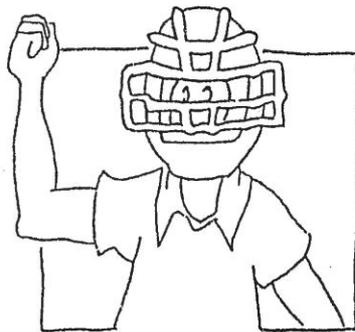
- ①スロット足つま先が投手板方向に向いているか
- ②ホームプレートが全部見えているか
（頭の高さ、位置）
- ③構えた姿勢が目分にとって快適か

2. プレイ、タイム

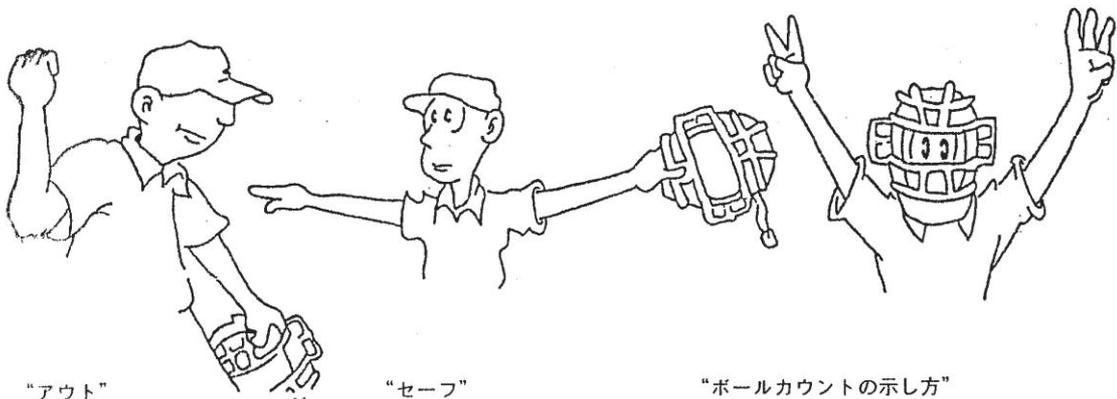


3. ストライク、ボール

- * 「ストライク」とコールする。肘は肩より上に上げる。
- * ボールも“Get set”の姿勢のままで「ボール」とコールする。ただし、動作はない。



4. アウト、セーフ、ボールアカウント



“アウト”

- * マスクは常に左手で持つ。
- * 右手で拳を作ってひじから先が地面と直角になるように上げる。

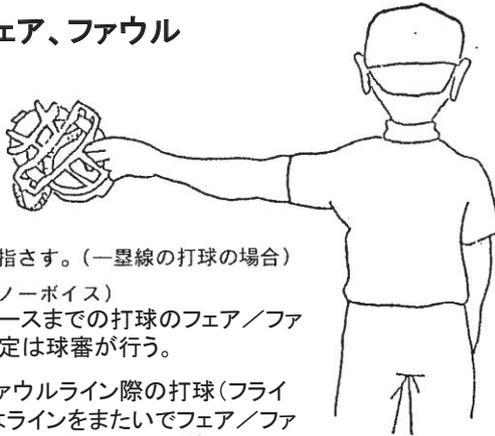
“セーフ”

- * マスクは常に左手で持つ。
- * 広げた両腕は地面と平行に。

“ボールアカウントの示し方”

- * 常に指を使う。フルカウントを示すのに拳は使わない。

5. フェア、ファウル



フェアを指さす。(一塁線の打球の場合)

(ノーボイス)

* 一塁ベースまでの打球のフェア/ファウルの判定は球審が行う。

* 一塁ファウルライン際の打球(フライを含む)はラインをまたいでフェア/ファウルの判定を行う。



フェアを指さす。(三塁線の打球の場合)

(ノーボイス)

フェアかファウルか際どい場合はジェスチャーを大きく。

* 三塁ベースまでの打球のフェア/ファウルの判定は球審が行う。

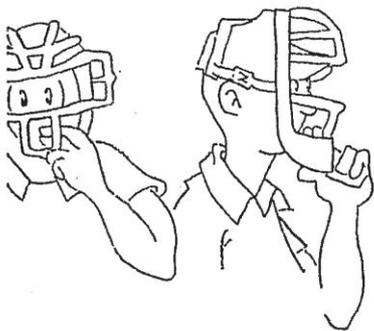
* 三塁ファウルライン際の打球(フライを含む)はラインをまたいでフェア/ファウルの判定を行う。

“ファウルボール!”

マスクを取ってコールすることが望ましい。



6. 球審(マスクの外し方、インジケータの持ち方)



左手でマスクの下部を前に引き、押し上げるようにして外す。



マスクを外すときのインジケータの持ち方



“間違ったやり方”



7. 四死球



四死球の場合

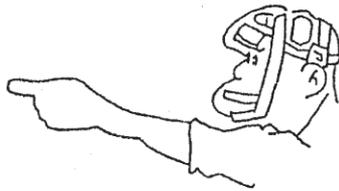
殊更動作はしない（従来の「フォアボール」と左手で一塁ベースを指差す動作を変更する。）

死球（ヒット・バイ・ピッチ）の場合

まず、ボールデッドのジェスチャー（両手を上げる）をしてヒット・バイ・ピッチを確認して打者を一塁へ。（グリップエンドに当たったような場合は両手を上げたのちファウル・ボールを宣告する）

明らかに死球の場合はボールデッドのジェスチャーを省いてもよい。

8. チェックスイング



一塁塁審を指差して“Did he go?”
1~2歩、一塁塁審の方向に踏み出して、左手で一塁塁審を指差して（または手のひらで），“Did he go?”（「振った？」）と塁審に聞く。



中にある塁審を指差して
「どうだ？振った？」
（三人制のとき）



三塁塁審を指差して“Did he go?”
1~2歩、三塁塁審の方向に踏み出して、左手で三塁塁審を指差して（または手のひらで），“Did he go?”（「振った？」）と塁審に聞く。



塁審
振っていない場合
セーフと同じジェスチャー

“No, he didn't go.”
“ノースイング”



塁審
振った場合
アウトと同じジェスチャー

“Yes, he went.”
“スイング”

9. ボーク

*球審は、“ザッツ・ボーク!”と発声するのみで特に動作はしない。そして、プレイが一段落してからタイムをかけ、ボークの処置をとる。

*塁審は、右手で投手を指差しながら、“ザッツ・ボーク”と発声し、そして、プレイが一段落してからタイムをかけ、ボークの処置をとる。



“That's a Balk!”
“ザッツ・ボーク!”

“Time!”
“タイム!”

(プレイが一段落するまで
タイムをかけないこと)

10. 塁審の構え方



“正しい構え方”

- ・視野を広く。
- ・プレイに正対する。

“違った構え方”

塁審は、

1. 一球ごとにセットポジション（ルックの姿勢）で構える。
2. プレイの判定のときにはセットポジションで構える。

*ただし走者がいないときは、スタンディング・セットポジション(立ったままの姿勢で、ひざを少し曲げて構える)でもよい。

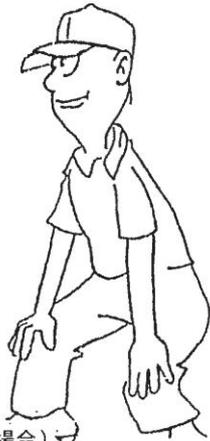
セットポジションの構え方：

1. ひざを軽く曲げる。腰を曲げない。
2. 両手をひざまたは太ももの上に置く。両足の内側に置かない。
3. 頭を上げる。頭を落とすな。
4. 肘をまっすぐに。
5. 肩の力を抜いて。リラックスして。
6. 重心は前に置く。機敏に動けるように。

★判定の
3大ポイント

- ①判定するときはとまって両ひざに軽く手を置きプレイを見極める。
- ②距離を一步近づきより、一步動いて良い角度をとるように心がける。
- ③いつでも次にどのようなプレイが起きるかを想像しながら行動する。

11. セーフ、オフ・ザ・バック



(野手の足が離れた場合)

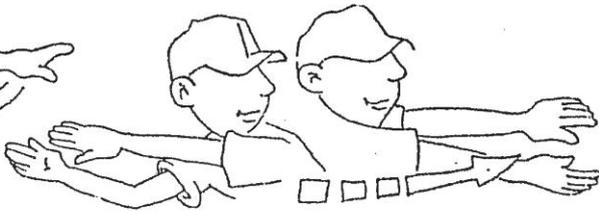


Making The "Safe" Call

"SAFE!"

"セーフ!" タイミングはアウトだが、
野手の足が離れた場合

"セーフ! オフ・ザ・バック!"



12. アウト

- * 野手がボールを落としたとき Safe! Drop the ball
- * 野手が"お手玉"したとき Safe! Juggle the ball
- * 走者がタグをかいくぐったとき Safe! No tag!

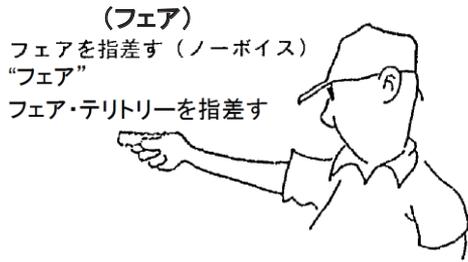


"アウト!"

Making The "Out" Call

"He's OUT!"

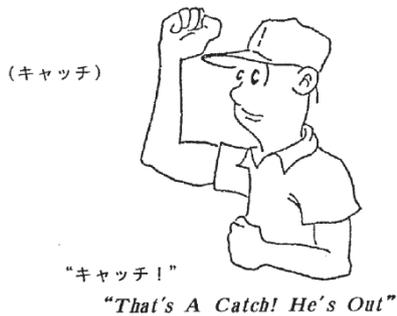
13. フェア、ファール



(ファール)



14. キャッチ、ノーキャッチ



15. ライン付近の打球

ライン付近の飛球で、野手はその打球に触れた場合には、まず先にフェア地域またはファウル地域のどちらで触れたのかを指差して明示する(地面と平行に出す)。

その後、プレイの状況を確認して、キャッチ(“That’s a catch!”)、ノーキャッチ(“No catch!”)または“ファールボール!”の判定をする